

横浜市 歴史博物館 NEWS 6 1997・9



- ◇いんたびゅー 佐野浅夫「風景を失った後、過去が知りたくなった」
- ◇特別展「中世よはまの学僧 印融―戦国に生きた真言密教僧の足跡」
- ◇もっと楽しく体験学習―体験学習室に新メニュー
- ◇企画展「海からの江戸時代」を終えて―クイズの解答と解説―
- ◇収集・収蔵資料の紹介[8] 子生観音境内之図
- ◇＜常設展示室探検＞文化財情報端末
- ◇歩いて、学んで、地域の歴史―歴史講座「土器作り教室」
- ◇ミュージアムショップオリジナルグッズ
―歴史の息づかいを感じるマグカップ
- ◇＜知ってますか？＞都筑民家園

佐野 浅夫 (さの・あさお)

風景を失った後、 過去が知りたくなった

◎横浜市歴史博物館の常設展示室を見た感想を聞かせてください。

僕は横浜生まれの横浜育ちで、自分の生まれた土地の歴史に触れる、という思いが、ほかの博物館を見せていただいた時の感慨とは違いましたね。僕は生まれたのが大正一四年、関東大震災の二年後、震災で壊滅した横浜の復興期に生まれたのです。それから昭和二〇年、繰り上げの徴兵で甲府にいる時、横浜の大地震があつて、兵隊から戻ったらそれまでの横浜がなくなっていた。ですから僕にとっての横浜の風景は、その二〇年間しかないのです。それだけに失ったものに対する興味が大きくて、震災前の横浜の歴史、特に出身の保土ヶ谷の歴史が知りたかった。それで出会った本が『保土ヶ谷区郷土史』です。その中で、幕末、国学者の吉田松陰がペリーの黒船に何とか乗ろうと、横浜に来て保土ヶ谷宿に泊まり、しかもここで、横浜開港の父と言われる開国論者の佐久間象山と出会った、といったことを読んだのです。横浜とかかわりのあつた人たちが、大変な功績を残したことに感動しました。

黄門さんに学んだ好奇心

◎テレビ・ドラマで黄門を演じていて、歴史



について考えることはありますか。

僕の演じているのは講談の黄門さんで、水戸黄門と呼ばれた実際の徳川光圀は、あんな諸国漫遊はしていないのです。ただ鎖国の時代に、何とか世の中のことを知りたいという探求欲や知識欲は強い方のようにでした。それで方々の藩の情報収集のため「助さん、格さん」のモデルになる人物を巡らし、その結果『大日本史』という歴史書を編さんされたわけです。

◎テレビの黄門は庶民とかかわりが深いのですが、江戸の庶民についてどう考えますか。

あのお話は元禄期、いつてみれば平和での

どかな時代です。そういう時世になると割合に役人が横暴になる。そういう意味で現代と似ている部分があるように思います。だからもつと庶民が怒っているのだけれど、どう怒っているかわからない。それを代弁するため黄門さんが出てくる、と受け取れるのではないのでしょうか。庶民といえば、テレビの仕事で「黄門の佐野浅夫」としてポルトガルに行ってきた。この時も僕は、あの国が一四・五世紀に繁栄した過去に「たわつた取材はあまりしなかった。むしろ、そういう歴史を踏まえて現在のポルトガル人はどうだろう、という目で庶民とのふれあいに努めました。こういう時の好奇心の持ち方では、黄門さんに学んだこともずいぶんあります。

復興期の街でスタンプ集め

◎子供のころの横浜にはどんな思い出がありますか。

今の西区の岡野公園や久保山の方へ行つて、土をほじつたら貝がらが出てきました。「こんなところから貝が出てくる」と子供心に不思議に思いながら、貝の掘り出しに夢中になったものです。それから横浜独特の「ホシチ」クモをつかまえて箱に入れ、友達同士でそのクモをけんかさせるという遊びにも夢中になりました。復興期の横浜で一番面白かったのは、小学校三年のころ、朱印帳という小さな帳面を持って、新しいお店ができると、そのお店のスタンプを押してもらいに、伊勢佐木町通りを片っ端から歩くのです。スタンプには店の名前に絵柄が付いていて、例えば地球堂という確か文房具屋さんのものは、地球儀を万年筆がグッと持ち上げるような絵だったことを覚えています。そのスタンプがいくつ集まるか、という遊びをやりました。

蔵の中に眠っているものを

◎この博物館に対する意見などがありましたら聞かせてください。

博物館というところは見ればいい。それでもいいのですけれど、こういうことを知りたい、といった目的意識を持って博物館に来られると、来た価値が一〇倍以上にもなるはずですし、そうやって学び取ったことは一生忘れないものです。博物館をつくるために、ものをそろえるために、大変な苦勞があることも理解してもらいたい。横浜でもまだ「蔵を開けてみたら、こんなものが出てきましたよ」ということがあるのではないのでしょうか。そうやって、庶民の蔵の中に眠っているものが博物館で生かされることを期待しますね。この博物館はそういうことを触発する場になればいいかな、と思います。

▽さの・あさおプロフィール

●一九二五年、横浜市に生まれる。日本大学芸術学部中退。一九四四年、劇団苦楽庵に入り、俳優の丸山定夫、薄田研二に師事する。一九五〇年、劇団民藝に入団、一九七一年の退団まで多くの民藝公演に出る。映画は一九四五年「後に続くを信ず」に初出演し、その後「きけわたつた声」「ピルマの罫琴」「黒い河」などに出演。テレビ・ドラマは「肝玉かあさん」「大岡越前」ほか多数出演、一九九三年から人気番組「水戸黄門」の三代目黄門を務める。また一九五四年からNHKラジオ番組「お話でこい」の朗読を担当。一九七五年、久留島武彦文化賞、一九七八年、モービル児童文化賞、一九九六年、勲四等瑞宝章を受ける。

●著書等「せん爺さんの太鼓」(舵社)「おはなしてていおじさんの話」(ひかりのくに)CD「山の鬼海」(東芝EMI)

特別展

中世よこはまの学僧

印融

いんゆう

室町時代の後期、世の中がまさに戦国の世を迎えようとしている時、関東において著作活動と弟子の養成にまい進した印融という真言密教の学僧がいました。その遺業はのちの世の人に、弘法大師空海の再来とまで称賛されるほどでした。

印融はたいへん読書を好み、外へ出かけるときにはいつも小牛に乗り、鞍には文卓をつけ、角には経巻をかがけ、お経を唱え、詩や歌を口ずさんでいたと言われます。

永享七年（一四三五）武蔵国久保（現在の横浜市緑区）に生まれたと伝えられる印融は、一説によれば、幼い頃より京都・奈良、さらには高野山にのぼり修行したとされます。しかし一七・八歳の頃、三云寺（港北区鳥山町）の賢継の弟子となったようで、長禄四年（寛正元年・一四六〇）には賢継より三会寺において醍醐三宝院流を伝授されます。また、文明一三年（一四八二）までに、寶生寺（南区堀ノ内）の覚日などから西院流を伝授されます。

これ以降印融は、金沢光徳寺（金沢区）・榎下観護寺（都筑区）・石川寶生寺などの他、柿生王禪寺（川崎市）・柚木即清寺（青梅市）など南関東の有力真言宗寺院で四〇人余の

戦国に生きた真言密教僧の足跡



●絹本着色印融像（三会寺蔵）江戸時代

弟子に付法しました。この弟子達の中からは、天文二三年（一五四四）に高野山金剛峯寺の第一八七代検校になった覚融のような僧侶も出ています。

印融の著作や写本は膨大かつ多彩で、真言密教の教相（教義面）・事相（実践面）の著作はもとより、音韻学・梵語学・漢詩論・密教図像学・辞書などの重要な著作・写本も多数残しています。その中でも晩年に著した『柚保隨道鈔』二〇巻は真言宗宗義の大成書とまで称され、代表的著作となっています。

また、曼荼羅研究の必読書である『両部曼荼羅私鈔』は、明治時代にいたるまで版が重ねられてきたほどです。印融は永正二六年（一五一九）八月一日に八五歳で入滅しますが、その著作の数は六〇余といわれ、この時代にこれをしのぐ僧侶は見つかりません。

この特別展は、学僧印融にかかわる著作や写本、絵画・彫刻などを一堂に集め展覧します。そして、室町時代後期の関東の真言密教界において、印融の果たした役割について考えてみます。

■展示構成

- I 金沢称名寺から鳥山三会寺に流れる醍醐三寶院流と印融
- II 鎌倉鶴岡八幡宮寺寿門の流れ高野山無量光院と印融
- III 西院流石川寶生寺、金沢龍華寺・光徳寺と印融
- IV 印融の著作とその思想の展開
- V 印融付法の弟子達への教育

■主な展示資料

- ・絹本着色融辨和尚像（龍華寺蔵）室町時代
- ・性霊集（高野版・印融手沢本・京都総本山仁和寺蔵）鎌倉時代
- ・西院流聖教（印融自筆・龍華寺蔵）室町時代
- ・血脈類集記（印融自筆・龍華寺蔵）室町時代
- ・塵袋（印融自筆・東京国立博物館蔵）室町時代
- ・三寶院法灌頂三巻式（印融自筆・高野山金剛三昧院蔵・高野山大学図書館寄託）室町時代
- ・韻鏡（印融假名付本・寶生寺蔵）室町時代
- ・木造印融坐像（観護寺蔵）江戸時代
- ・諸尊表白抄（印融自筆・高野山釈迦文院蔵）室町時代

会期

1997年
10月25日(土)
～11月24日(月)

もつと楽しく体験学習

体験学習室に新メニュー

様々な技術の進歩により、私たちの生活は昔にくらべ大変便利になりました。しかし、その一方で我々の先人が長い間培ってきた知恵や技術は急速に失われつつあります。本来そのような知恵や技術は我々現代人が受け継ぎ、後世へと伝えて行かなければならないものではないでしょうか。

博物館ではこのような認識にたち、開館時から体験学習事業を進めてきました。体験学習は二つに分かれます。一つはこのニュー



の楽器を鳴らす「火打ち石」江戸時代の双六遊び「駕籠に乗る」などです。小学校の団体が来館すると、体験学習室からは、小学生の笑い声に混じり、火打ち石を打つ音やほら貝を鳴らす音などが聞こえ、博物館中に響きまします。おおむね従来の体験メニューは好評のようです。

博物館では九月から新メニューを用意しました。新メニューの考え方は大人の方でも興味をもてる体験で、①「ふろしきで包もう」、②「巻物を扱う」、③「江戸時代の古文書解説」、④「あなたの町の百年前?」、⑤「みてみよう古墳時代のファッション」の五つです。一、二紹介

スでも紹介した催事体験で、主に小学生を対象とし、月に一回か二回、遺跡公園内の工房で行っています。もう一つは博物館内の体験学習室にある道具類を用いた日常体験で、指導員の補助を得て毎日簡単な体験をすることが出来ます。



しましょう。①はふろしきで様々なモノを包んでみます。過剰包装が問題となっている現在、なんでも包めそして何回でも使えるふろしきが見直されています。皆さんも一枚のふろしきから先人の知恵を学んでみましょう。

宅地開発が進み、皆さんが住む町もその姿を大きく変えました。ましてや百年前の町の姿など誰が想像できるでしょうか。④は百年前の市域の地図を用意し、現在の地図と比較します。百年前の信じられない町の姿が発見できるに違いありません。

また新メニューはスタートしたばかり、すべてのメニューが定着するかはわかりませんが、日頃経験できない体験を多くの方に提供したいと考えています。皆さんのおいでをお待ちしています。

企画展「海からの江戸時代」を終えて ——クイズの解答と解説——

博物館では平成九年四月二十六日から六月十五日まで企画展「海からの江戸時代——神奈川湊と海の道——」を開催し、二万五千人あまりの方々にご覧いただきました。

展覧会は、江戸時代の海運を中心とし、神奈川湊と関わりの深い尾州廻船に焦点を

当てたものでした。各地の資料所蔵者のご厚意により、船の模型や古文書、絵馬などさまざまな資料を出品いただきましたが、中でも目を引いたのは、実物大に作られた弁財船の断面模型や、実際に江戸時代の廻船で使われていた碇や帆桁といった実物資料ではなかったかと思えます。江戸時代の海運を担った弁財船はすべてが廃船の運命をたどり、現在では一艘も残っていません。模型や写真などから当時の姿や大きさを想像するほか手だてがないのです。今回は実物をご覧いただき、江戸時代の廻船の世界が少しでも実

感できるように展示を構成いたしました。

会場では、実物の大きさや重さを想像していただくためにクイズを行い、全部で二二三通もの応募がありました。この場をかりて解答と解説をさせていただきますと思います。

クイズの第一問は、四爪碇の重さを当てる問題でした。

展示した四爪碇は、伊豆国須崎（静岡県下田市）の廻船で用いられ、江戸時代後期に海上安全の信仰を集めた青峯山正福寺（三重県鳥羽市）に奉納されたものです。大きさは、高さ二メートル九〇センチ、クイズの答えとなる重さは約四〇〇キログラムありました。大ききから千石積み（せんごく）の船に用いられていたものと考えられます。

第二問は中木（静岡県南伊豆町）、大矢・小矢（三重県磯部町）という三カ所の方位石の合計の重さを当てる問題でした。

中木が約三二〇キログラム、大矢が約二七〇キログラム、小矢が約三〇〇キログラムで、正解は合計六〇〇キログラムです。江戸時代の船は風が主たる動力でしたから、逆風などでは進めなくなります。そ

●四爪碇（三重県・青峯山正福寺蔵）
この重く大きい碇を、標高三〇〇メートルの場所にある青峯山正福寺まで、人間の力だけで運び、奉納した事実は、驚き以外の何物でもありません。



のために順風が吹くのを予測し、運航していました。方位石はその風向きを知るために日和山と呼ばれる観測地点に置かれていたのです。

第三問は帆桁の長さを当てる問題でした。

帆桁は帆を吊るす役割をしており、船の大きさによって長さは異なります。今回展示していた帆桁の長さは約一四メートルで、五〇〇石積みの弁財船のものでした。現在は三分割されていますが、一本柱だった当時はかなりの重さがありました。

これらの碇や帆桁は、いったいどうやって運んだり動かしていたのでしょうか。資料をお借りに伺った際には、碇は九人、方位石は五人、三分割された帆桁でさえも七人がかりでようやく運びました。トラックに積み終えたあと、スタッフの肩にはあざができていたくらいです。エンジンやモーターが当たり前の私たちからは想像できませんが、廻船の運航ではこれらの碇や帆桁の上げ下げなどは日常的に行われていました。このような大きく、重いものを自在に操る知恵と工夫が、江戸時代の海運を支えていたのです。

●方位石
左：中木（静岡県・南伊豆郷土館蔵）
中：小矢（三重県・磯部町郷土資料館蔵、磯部町指定文化財）
右：大矢（三重県・磯部町郷土資料館蔵、磯部町指定文化財）
中木は台座の上に載せて使用されており、大矢と小矢の方位石は地中に埋め込まれて使われていました。大矢と小矢の日和山は標高30メートルくらいの所にあります。この重い方位石の据え付けにはどのような技術が用いられたのでしょうか？



●帆桁（愛知県・南知多町郷土資料館蔵）
倉庫の柱として使われていたため残ったもので、弁財船の帆桁としては現存する唯一のものと推定されます。残念ながら保存の際に三分割されてしまいましたが、この状態でも運搬に七人の人手が必要ほどの重さがありました。



子生観音境内之図

鶴見村(鶴見区)の西側には、子育てに関する信仰の対象として多くの人々が参拝した子生観音と、別当寺としてその管理を行っていた東福寺がありました。今回紹介する「武蔵国橘樹郡神奈川領鶴見郷子生山観世音境内之図」は、その子生観音の境内と周辺地域を一枚に描いたもので、本来単色刷のものに手彩で着色したものです。

この図の方位は、北西を上、南東を下にしています。下部には東海道が中央部で下に向かって若干押し出されるように湾曲しており、同図に描かれている東海道の範囲は、西は神奈川宿、東は川崎宿から多摩川となつています。左下には「安房」「上総」という地名もみえ、わずかに房総半島もみえます。



図のほぼ中央には、東海道から上部に向かって真つ直ぐに伸びる参道と、子生観音及び東福寺の境内の内部が詳細に描かれています。いわばここに描かれているのは、子生観音を中心として構成される一つの世界であ

り、本図が着色されたのも、あるいはそうした世界観をより豊かに認識するためであったのかもしれない。

右上には「日本橋より子生山江五里半、六郷渡シ場より子生山江壹里十二丁、川崎宿より神奈川宿迄式里半ノ場所、川崎より子生山江参詣いたし、通り抜二して、本往来より三丁近シ、東海道生麦村景願寺脇より子生山仁王門江壹丁、川崎より大師河原江廿丁、大師より子生山江通り抜二して壹里半」という文章が記されています。その文意は、江戸日本橋から子生観音までの距離は五里半(約二・三キロ)、六郷(多摩川)の渡し場からは一里一二丁(約五キロ強)であり、また、東海道の川崎宿から神奈川宿までは二里半(約一〇キロ)の道のりであるが、川崎宿から子生山へ参詣して通り抜けるルートを通ると、「本往来」＝東海道を通るよりも三丁(約三〇〇メートル)ほど近道であるというものです。これは絵図にもあるように東海道と仁王門の間を横切っているルートで、ほぼ丘陵部の裾を通り、東海道の合流点には、道標と思われる石塔がみえます。また、厄除けの信仰対象として有名な川崎大師からは壹里半(約六キロ)の距離であるとしています。おそらく川崎大師とセットでの参詣を期待したものでしょう。

このように本絵図は江戸からの参詣を期待して作成されたものであり、この絵図の作成に関わる費用を支出したと思われる施主が、江戸銀座町の松沢八郎右衛門と芝神明町の梅田六郎兵衛であることとあわせて、子生観音の信仰範囲が江戸まで広がっていたことをうかがわせています。

常設展示室探検

文化財情報端末



常設展示

ます。これは横浜市の歴史や文化財の情報を見覚的に提供する文化財情報利用システムの端末です。端末で利用できるシステムメニューは①クイズ劇場、②館内の資料検索、③横浜市の文化財検索の三つです。①は、横浜の歴史や文化財を題材にしたQ&Aシステムで、「黄金伝説」「浜助戦国出世物語」「横浜ガイド」の三つのストーリー展開から五問の設問が出されます。皆さんもストーリーキャラクターたちと一緒に難問に挑戦してみてください。②は、日頃目にする機会のない博物館の収蔵資料を検索するもの。検索によって意外な資料との出会いがあるかもしれません。③は、横浜地域にある国・県・市の指定文化財を検索するもので、文化財所在地の交通案内図のプリントサービスも行っています。これらの端末はタッチボールで操作でき、コンピュータが苦手な方でも簡単に扱えます。ぜひご利用ください。

歴史講座

「土器作り教室」

横浜歴史博物館が所在する港北ニュータウン地域は、原始・古代の遺跡の宝庫として古くから知られていました。その開発にともなう、二六八か所の遺跡の発掘調査が昭和四五年から二〇年間かけて行われました。その結果、遺跡の内容が明らかにされるとともに、数多くの貴重な発見が相次ぎ、さらに現在、埋蔵文化財センターで進められている整理作業によって、横浜の原始・古代の歴史と文化は、よりいっそう豊かなものになっています。その遺跡の一つに博物館に隣接した国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」があります。弥生時代の環濠集落と墓地からなる遺跡で、博物館の野外施設として遺構を復元・再現すると



Walking and learning



歩いて、学んで、地域の歴史

もに体験広場や工房などの施設を整備し、「遺跡公園」として平成八年三月にオープンしました。

博物館では、こうした地域の歴史的特性を背景に、遺跡公園の効果的な活用を図る目的で平成八年度から「土器作り教室」を歴史講座の一つに加えました。

土器作り教室は、港北ニュータウン地域の縄文時代の代表的な集落遺跡である三の丸遺跡から出土した縄文土器をモデルに、可能な限り縄文時代と同じ条件・素材・方法で縄文土器を制作し、縄文人の生活や文化を体得することを意図しました。市内在住・在勤の一八歳以上の方を対象に募集しましたが定員二〇名のところ七倍を超す一四七名もの応募があり、今まで開催した歴史講座のなかで最も高い倍率となりました。いかにこの事業に関心が高かったかを物語っています。

土器作り教室は、平成九年三月の四回の日曜日に遺跡公園工房と体験広場において、次のような工程で行われました。実施に当たっては、土器作り二〇年以上の実績を持つ千葉市立加曽利貝塚博物館のご助言と加曽利貝塚土器づくり同好会の方々のご指導をいただきました。

①土練り(二日目)

木箱に粉末状に細かく砕いた粘土と砂を六対四の割合で混ぜ、約一リットルの水を徐々に加えながらひたすら練り上げます。

②成形(二日目)

まず土器の底部から作り、その上に粘土のひもを一段ごとに厚みを均一にしながら積み上げ形を整えます。モデルの土器を細

かく観察し、文様をつけていきます。

③磨き(三日目)

煮炊きしても水漏れしない土器にするために、ハマグリの殻や円い小石で、内面の凹凸をなくしながらうねいに磨きます。

④焼き上げ(四日目)

磨きから二週間後、遺跡公園体験広場で、いよいよ焼き上げです。おき火を作りながらその周囲に土器を完全に乾燥させるために並べます。おき火ができたがいたら土器をその中に立てておき、しばらくしたら土器が隠れるほどに薪を積み上げると、おき火が薪に付き炎が高くなります。焼き上がった土器は早めに長いさおで取り出します。

腕がだるく手のひらがひりひりと痛んだ土練り、粘土を上手に積み上げるのに苦心した成形、晴天に恵まれ、ひたすら割れないようにと念じた焼き上げなど、参加者の想いはさまざまでした。

その後、四月中旬から一か月間にわたって、参加者の作品と土器作りの工程を紹介した「私たちが作った縄文土器」展を博物館体験学習室で開催しました。



歴史の息づかいを感じるマグカップ

ニュースNo5で製作中にご紹介していたオリジナルのマグカップが、ようやくできあがりしました。これは一筆箋にもなっている、当館収蔵の横浜浮世絵「外国人物尽 英吉利」と「外国人物盡 亜米利墨」をもとにデザインしたものです。飲み口のまわりのモチーフは、開港当時貿易の中心であった「茶」の商標ラベルをあしらったもので、さわやかなブルーの色づかいにしてあります。どちらも文明開化



の横浜がしのばれるものです。サイズも手頃な大きさと、プレゼントにも最適です。このオリジナルティあふれるカップで、異国情緒を味わってみてはいかがでしょうか。

ミュージアムショップでは、博物館に来て、見て、感じたものを何か形にしてお持ち帰りいただきたいという願いから、特にオリジナルの商品の開発に力を入れています。あんなものがあつたらいいな、こんなものが欲しいなというものがあれば気軽に声をかけてください。あなたの発想がグッズの一つに加わるかも知れませんよ。

Museum Shop Original Goods
ミュージアムショップ オリジナルグッズ

INFORMATION

今後の企画展のお知らせ

- ◆中世よこはまの学僧 印融(いんりゅう)－戦国に生きた真言密教僧の足跡－ 10月25日～11月24日
中世後期の密教界において、弘法大師の再来とまで称された印融の遺業に迫ります。
- ◆収蔵資料展Ⅱ 1月17日～2月22日
これまでに収集してきた資料の中から土鈴のコレクションを中心に展示します。
- ◆横浜発掘物語(仮題) 3月7日～4月5日
1905年のマンローによる三ツ沢貝塚の発掘以来、これまで横浜市域で行われてきた発掘調査の歴史をさかのぼり、その成果、時代背景・世論の反応、資料の管理・活用上の問題などを考えていきます。

??????? 知ってますか ???????

都筑民家園



れます。園内には、庭や畑、池など、大地や自然とふれあえる施設があり、楽しみ方はいろいろあります。

また、市民共有の文化遺産として十分活用されるよう、年間を通じてさまざまなイベントを行っています。企画・運営を行っているのは都筑民家園愛護会です。地域住民、文化団体、行政代表からなる委員で組織されています。イベントの情報などをお知りになりたい方は、園内管理棟にある事務局まで、ぜひお声をかけてください。(都筑民家園愛護会事務局TEL.592-9799)

「現代的な家もステキだけど、どこにいても家の中が見渡せる、こんな家に住みたいな」これは、3月にオープンの都筑民家園を訪れた小学生の言葉です。

大塚・歳勝土遺跡公園の中にある都筑民家園には、なつかしい昔の農家の落ち着いた雰囲気があり、心をゆったりと過ごさせてく

トを行っています。企画・運営を行っているのは都筑民家園愛護会です。地域住民、文化団体、行政代表からなる委員で組織されています。イベントの情報などをお知りになりたい方は、園内管理棟にある事務局まで、ぜひお声をかけてください。(都筑民家園愛護会事務局TEL.592-9799)

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ●

(97年4月1日) 97年9月30日

- 4月5日 4月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「小さな旅－花香る江戸の心を訪ね来よ」
- 4月6日 企画展「江戸時代の横浜の姿－絵図・地誌などにみる」終了(観覧者5,777人)
- 4月12・13日 体験学習「小田原ちょうちん」
- 4月19日 歴史講座作品展「私たちが作った縄文土器」開催(5月11日まで、観覧者18,290人)
- 4月26日 企画展「海からの江戸時代－神奈川湊と海の道」開催(6月15日まで、観覧者25,964人)
- 5月3・4日 体験学習「ぞうり編み」
- 5月3日 5月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「小さな旅－揺籃の海輝いて、ビデオシアター「弁財船を復元する」【御船神事】
- 5月4日 企画展関連講演会 斎藤善之氏「全国流通の展開と神奈川湊」
- 5月10・11日 交通史研究会大会・総会開催
- 5月23日 歴史講座「戦国文書で読む横浜の歴史」(7月25日まで毎週金曜日連続10回)
- 5月24・25日 体験学習「まがたまづくり」
- 6月1日 企画展関連講演会 神野善治氏「船の祭り」と信仰、静岡県相良町大江八幡宮御船神事保存会「御船神事」上演
- 6月7日 6月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「小さな旅－老杉は雨に美しく、ビデオシアター「弁財船を復元する」
- 6月14・15日 体験学習「土偶づくり」
- 7月5日 7月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「始皇帝／黄泉の国の軍団 兵馬俑」、ビデオシアター「おいでよ弥生のムラへ」
- 7月12・13日 体験学習「鷺笛づくり」
- 7月16日 企画展「コレクションに見るカメラ・写真の歴史Ⅱ－広がる写真」開催(8月24日まで、観覧者8,790人)
- 7月26・27日 体験学習「土偶づくり」
- 8月2日 8月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「ロスト・アニマルズ」、ビデオシアター「おいでよ弥生のムラへ」
- 8月9・10日 体験学習「火おこし体験」
- 8月23・24日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月29日 <ふるさと横浜探検1>大塚・歳勝土遺跡公園と遺跡発掘現場の見学
- 9月4日 防災訓練
- 9月6日 9月のハイビジョンシアター(土・日・祝日上映)「慶州 新羅千年の都」、ビデオシアター「都筑民家園 旧長沢家住宅の復元」
- 9月13・14日 体験学習「竹皮ぞうり編み」
- 9月25日 <ふるさと横浜探検2>国史跡称名寺境内と平瀬湾の歴史散歩

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日、祝日の翌日、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(2時間400円)

●インターネットホームページを開設しています。ご利用下さい。
<http://www.via.or.jp/~imnet/yokohama/index.html>

編集後記

博物館の軒下にセキレイが巣を作っています。都筑民家園の池ではカエルが暮らしています。こころは横浜市の中でも自然の恵みがあふれているところ。夏休みに見た映画に影響され、自然のかわりという視点から人間の歴史を考えた、展示室をながめてみました。夏休みになくさん訪れた子どもたちはどんなテーマを持って帰っていったのでしょうか。

